

東京都歴史教育研究会会員 各位

東京都歴史教育研究会会長 関山 勝之
(東京都立葛西南高等学校長)
東京都歴史教育研究会副会長代理 高野 修一
(東京都立成瀬高等学校長)

令和6年度 東京都歴史教育研究会春季講演会のご案内

立夏の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より本研究会の活動にご協力ご支援をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおり開催いたします。校務ご多忙の折とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようお願いかたがたご案内申し上げます。

記

- 1 日 時 令和6年6月29日(土) 午後3時から午後5時まで
- 2 会 場 東京都立武蔵高等学校・附属中学校
住 所 東京都武蔵野市境4-13-28
電 話 0422(52)4554
アクセス JR中央線「武蔵境」駅下車、北口より徒歩10分

3 講演会

- (1) 講 師 学習院女子大学 国際文化交流学部
教授 武井 彩佳 氏

1971(昭和46)年愛知県生まれ。1994年早稲田大学第一文学部史学科卒業。2001年早稲田大学文学研究科史学専攻博士課程修了。2001~2004年日本学術振興会特別研究員、2004年博士(文学・早稲田大学)、早稲田大学比較法研究所助手などを経て、学習院女子大学国際文化交流学部教授。専攻はドイツ現代史、ホロコースト研究。著書『戦後ドイツのユダヤ人』(白水社、2005年)

『ユダヤ人財産は誰のものかーホロコーストからパレスチナ問題へ』(白水社、2008年)

『〈和解〉のリアルポリティクスードイツ人とユダヤ人』(みすず書房、2017年)

『歴主修正主義』(中公新書、2021年)

- (2) 演 題 「ホロコーストから現在を眺めるー私たちの世界は過去とどうつながっているかー」

現代の私たちは、実は今もホロコーストの影響の下に生きている。例えば、現在進行形のガザ戦争である。イスラエルの建国が生んだ問題が、なぜいまだに続いているのか。ここにおける欧米社会、特にホロコーストに責任のあるドイツの立ち位置はどこにあるのか。また、現在ロシアのプーチンに逮捕状を出しているICC(国際刑事裁判所)は、ホロコーストのような国家犯罪を追及するために設置されたものだ。ICCはイスラエルを扱うことができるのか。

このように、ホロコーストは現在の国際社会のあり方を、間接的にも直接的にも定めている。しかし、そのつながりは歴史的に構築され、複雑に入り組んでいる。歴史の教育者は、いかにこれを可視化できるだろうか。また複雑な現状を、複雑なものとして教えることとは、いったい何を意味するのだろうか。

- (3) その他 当日は来場型とZOOMによるライブ配信の予定となっております。

ZOOMでの視聴を希望する場合は問い合わせ先のメールアドレスにて申し込みを行ってください。後日ミーティングIDとパスコードをお送りします。

【問合せ先】

東京都歴史教育研究会

事務局(東京都立武蔵野北高等学校)

事務局長 細川 貴之

Takayuki_Hosokawa(@マーク)education.metro.tokyo.jp

電 話 0422(55)2071